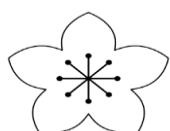


素直 ⇄ 信頼



自分から

小平市立上水中学校
第2学年 学年だより
NO. 44
令和3年3月22日

3年生が、一人一人心のこもった最後の返事と精一杯の決意を体中から出し切って、卒業していきました！

2年生のみなさんにも、お見せしたかったです、こういう形の「卒業」があるということ。

歌やお祝いの言葉などのない式でしたが、一つ一つの所作に卒業生の人数分の意味があり、それを本人が意識していることを、3年の先生方が見事にキャッチされていました。証書授与や式辞の際の校長先生のご様子からも、そのことが大いに感じられました。全員の返事がしっかり聞こえたこともさることながら、卒業生の眼差しは1点、演壇の校長先生に向けられていましたし、旅立つ直前の3人の言葉の時も、全員が起立したまま10分間以上、身動きひとつない姿勢で保護者の方に向かい、集中していました。

昨年度の2月あたりから全体や学年行事のほとんどが中止となり、特にこの3年生は部活動も含め、卒業間際まで本来の学校生活とは程遠い生活となりましたが、それゆえに、かえって「切り替える力」「進路に向ける力」「仲間と結束する力」が増し、これが「新しい力」なのかと感動しました。



＜一糸乱れぬ3年生＞



＜卒業制作「わたしから見たわたし」の紹介＞



＜1年生からの応援メッセージ＞

3年生が歓送されて校門から去るのと同時に、真昼の暖かさと共に桜の花が一斉に咲き始めました。背中を後押しするように。

また、早朝、正門を通る小学生たちが看板の文字を一つ一つ大きな声で「そつ・ぎょう・しき！」と読む姿も、晴れの日にあふさわしく、印象的でした。



＜桜の花びらが3年生を応援して＞

3年生に 幸あれ！！

2年生のみなさん、式場準備、ありがとうございました！



式場内の準備は2年生が担当しましたが、左の写真の座席設置の見事さが話題になりました。縦・横・斜めが揃い、実に美しい。指揮を執ってくれた先生方の緻密な設計がすばらしかった上に、2年生がよくそれを理解し、にこにこした笑顔で整えました。パイプ椅子のしまっており、出し入れの仕方、校旗は校長室に保存され組み立てる物であること、紅白幕の重ね方一つで場内に輝きが増すこと・・・みなさんが「きちんとこだわる」ことで、3年生への感謝と尊敬の気持ちを表せたことは、言うまでもありません。入学式準備でも、力を貸してください！



pixta.jp - 3206837

こだいらの小・中連携教育 健全育成

「自分のことも友達のこと大切にする標語及びポスター」の標語部門 入選
小・中連携教育推進委員会賞 『迷わずに 声をかけよう 誰にでも』 A組 男子

2年生全員で関わった人権問題をベースにして、生徒会本部役員、後期学級委員、国語係などで、標語を作成しました。入選した標語の「誰にでも」という部分は、各クラスの発表会で話題になった言葉の一つです。2年生の標語の一部を紹介します。

- ★「つらいときは 頼ろう つらそうだったら 声をかけよう みんな一人じゃない」
- ★「冷静に 立場を変えて 考えよう」「立場を変えて 考えよう 誹謗中傷 言葉の重み」
「おはようと あいさつするのが 第一歩」「今年一年 三密避けつつ こんにちは」
「考えよう 誹謗中傷 言葉の重み」
- ★「認めよう 自分と友達 守るため」
- ★「相手のこと 思うより先に 自分のこと」(自分の為すべきことをまず済ましてから、という意)
- ★「手を取って 心の距離は 密でいよう」「心の温かさと友達は 同じ数だけ」
「自分を友達のように。友達を自分のように。」「寄り添うこと 一緒に歩みを 進めること」
- ★「温かい 優しい笑みは 溶かしてくれる 心に刺さる冷たい言葉も」
- ★「優しさも 時には厳しく 本当の友」
- ★「その言葉 顔を見ながら 言えますか?」「少しでも笑ってみよう 楽になる」
「大丈夫? その一言で救われる」